

令和8年度 金沢市森づくり市民会議（第1回）

日 時：令和8年7月3日（金） 14時00分～15時30分

会 場：金沢市役所第二本庁舎3階 2201会議室

出席委員：大河原委員、河崎委員、黒氏委員、小杉委員、近藤委員、澤田委員、鰐委員
前委員、増江委員、水越委員、柳井委員、横山委員 12名

欠席委員：喜多委員、北村委員、西多委員 3名

事務局：堀場農林水産局長、青山森林再生課長 ほか10名

【次第】

1 開 会

2 挨 拶

3 会長あいさつ

4 議 題

（1） 令和7年度森林再生施策の実施報告について

（2） 金沢の農業と森づくりプラン 2030 及び令和8年度の取り組みについて

（3） 金沢もりづくりベース東浅川について

5 閉会

【議事録】

事務局より説明

（1）令和7年度森林再生施策の実施報告について

（会長）

議題1について意見はないか。

（横山委員）

市営造林の主伐が始まり、出材が増える見込みであるが、旧プランの目標の一つであった公共施設への木材利用量の低さが気になる。出材増に併せて公共施設への木材利用に予算の拡充などが必要ではないか。

（事務局）

新規公共施設の設置は金沢市事業全体を見ても限定的である。その中で今後も継続的に利用増加に向けた推進に取り組んでいきたい

（近藤委員）

クマ被害対策について、緩衝帯整備での草刈りは年2回刈りが必要であるが、実施している町会はあるか。また、実施町会は増加傾向にあるがまだ十分ではないと思われる。市から

どの場所を緩衝帯整備すべきであるかのアプローチはあるのか

(事務局)

ほとんどの町会で2回刈りに取り組んでもらっており、出来ていない町会へは市から指導も行っている。

(近藤委員)

緩衝帯整備が伸び悩んでいる理由は、草刈りできる人員の不足ではないか。草刈りお助け隊など人材支援も視野に入れてはどうか

(事務局)

町会からは、緩衝帯整備のボトルネックは草刈りなどの労務の不足よりも、整備したい土地の所有者との合意形成がハードルであると聞いているため、その都度、市担当者が所有者の調べ方等の相談に乗り、サポートしている。

(会長)

クマの緩衝帯整備による効果はどのような声があがっているのか

(事務局)

整備した箇所を他町会が見ることで、同じ事業に取り組むようになるなど整備意欲について良い波及効果がある。整備自体については、緩衝帯を整備することでクマと人がお互いに視認できることもあり、被害軽減につながっていると解している。

(黒氏委員)

ヤブ刈りの作業をする際に、何か安全対策を市から指導しているか

(事務局)

春3月と秋9月の年2回の班回覧で、市民へ安全対策を普及啓発しており、早朝・夕方の作業の回避やクマ鈴・ラジオ等の携帯を指導している。

(澤田委員)

森林資源の利活用について、金沢市にはペレットストーブの補助事業があるが、受付枠が少なく、昨年度は申請できなかったという声も聞いたため、民間利用促進のため補助拡大を検討してはどうか。また、金沢産材のペレットを普及拡大させるためには購入先の案内を行うといった周知が必要だと考えるが、どうか。

(事務局)

まず、現在、金沢産材のペレットを製造している業者はないため、金沢市産材を含む石川県産材のペレットをご利用いただくことになる。加えて、ペレットストーブの補助事業は環境政策課の事業であるため、今回の意見を共有したい。

(鏑委員)

旧プランのうちペレット消費量の達成率がかなり低位であるが計上は公共施設のみであるか

(事務局)

公共施設のみである。旧プランの策定時には市内でのペレット製造業者がいたため、使用量目標を高く設定していたが、その後業者が撤退し市内製造が不可能と際に当初目標数値の達成が困難となった。一度、使用量の目標を下方修正したが、既設の設備などに不具合などが立て続いており、今回の結果となった。

事務局より説明

(2) 金沢の農業と森づくりプラン 2030 及び令和 8 年度の取り組みについて

(会長)

議題 2 について意見はないか。

(大河原委員)

緩衝帯整備は具体的にどのような整備方針で行っているのか

(事務局)

人の生活空間とクマの生活空間の間を面的に草刈りすることで、接触の機会を減らすことを目的としている。出会い頭の遭遇が人身事故へつながりやすいため、これを無くすことが重要であると思う。

(大河原委員)

クマとの接触事故は山へ入った人が襲われるという事案も多いため、登山や山菜採りで山へ入る人たちへの指導を検討してもよいと思う。

クマの檻を増設するとのことであるが、これに伴う檻の管理体制は整備されているか

(事務局)

増設に併せて、猟友会と連携を密にして見回り強化等の対策をとっている。また、見回りの労務及び捕獲時の危険性軽減のため、檻管理用のセンサーを付けるなどの効率化も進めている。

(河崎委員)

再造林の推進とあるが具体的に何をするのか

(事務局)

土地所有者と造林者がスムーズに県補助などに進めるように橋渡しをしている。また造林補助への上乗せも実施している。

(河崎委員)

林福連携が最終年度の 3 年目となり、クヌギ苗の生産が年間 3 万本に到達するなど一定の効果を上げている。今後少花粉スギの苗生産も取り組んでいき、より効果的な再造林を進めるようにしていきたいと思う。

(増江委員)

再造林の樹種は、今後の金沢市の木材生産の方向性を決める上で非常に重要な選択となるだろう。例えば能登ヒバ（アテ）は目立った特長が多く、ブランディングもしやすい。アテは成長が遅いというデメリットがあるが、金沢市内の再造林でも将来性を見据えて石川県全体の価値・資源が高まるような樹種の選択を検討してほしい。

(横山委員)

市営造林は主伐後に土地を所有者へ返還するとのことであるが、団地化してあったため筆の境界がわからない。また全体的に土地所有者の植栽意欲も低いため個人への返還は難しいのではないかと。解除では無く市営造林の更新という方法は取らないのか。

また、クマ対策について。市施策では市街地進入を主な対策として掲げているが、実際は森林で散策や山菜取りをする者や、山間地で畑作業をする者もクマを恐れるようになっていく。市街地以外への対策は無いのか。特にクマの移動をセンサーで確認したり、AIで予測したりするなど先んじて情報をキャッチ、発信する手法は無いのか。

(事務局)

市営造林については、解除の際には公図等に基づき境界を復元した上で土地所有者へお返ししようと考えている。また、今の土地所有者は代変わりしていることもあり、再造林やその後の管理も林業事業体へお任せしたいという意向が多く、主伐地は林業適地であることから土地所有者と林業事業体が直接話をして植栽・育林してもらう方針である。また、主伐事業は令和5年度に検討委員会の決議で定めた市営造林運用計画に基づき実施しており、現在は、新たな市営造林契約という意味での更新の方針は計画に無い。

クマについては、目撃情報が寄せられた際にメールで迅速に情報発信している。山へ行く際の注意点や対策については、年2回の班回覧を通じて実施している。クマ檻の増設に伴い、より多くの箇所には檻を設置し、捕獲活動を進めることでクマとの接触を減らし、市全体としてのクマ対策に繋げたい。

事務局より説明

(3) 金沢もりづくりベース東浅川について

(会長)

議題3について意見はないか。

(黒氏委員)

木工室には道具類があるのか

(事務局)

今後購入予定であるが、ノコギリ、金づちなど基本的な道具類に加えて、電気工具類も含めて設置し、使用してもらう予定である。使用の際は団体登録などが必要であるが、道具の持込なども認めている。

(近藤委員)

木工室は他施設にもあるので、この施設では他よりレベルの高い道具類を揃えてほしい。

施設利用費を徴収すると、有料の設備であるため有料講座としなければ講座開催自体が赤字となるため、主催者が集まらないのではないか。

また、火気の使用はできるのか。アロマや焚き火などの催しでの使用を考えているが、屋内ならどこで使えるのか、屋外なら直火でも使えるのか。

(事務局)

木工室の道具はDIYよりワンランク上も作れるというコンセプトを考えており、準備している。

施設利用費を徴収することは、以前の市民会議で提言のあった通り、主催者の真剣味に直結するための要素として設定した。

火気の使用は屋内では調理室のみとしている。屋外については未定であり、施設周辺の住宅地への配慮も必要であることから、現在、検討中である。

(近藤委員)

木工室での保険などは誰がかけるのか

(事務局)

一般的な施設全体での保険は市として設定するが、各種講座などでの保険は主催者側でのイベント保険等に加入してほしい。

(小杉委員)

運動場があるが何に使う予定か

(事務局)

占有しない利用では、申請不要だが、独占な利用では、事前に申請が必要となる。市とし

ては運動を目的とするのではなく、小学校遠足やイベント等で施設に訪問してもらい、施設全体での体験活動の充実させることを目指していきたい。

(小杉委員)

施設には専門家の方は配置されるのか

(事務局)

直営の委託事業というかたちで、専門家からアドバイスをもらえるような体制の構築を検討している。

(前委員)

未就学児向けの設備のある施設であるが、授乳室や子ども用トイレなどはあるか

(事務局)

どちらも設置する。

(水越委員)

自身の事業の中で木材の端材が大量に出てくる。県農林漁業祭などで端材を提供するとすぐに売り切れており需要が高い。個人のDIYでは想定できないような独自性のある工作などがあり、非常に関心を引かれる。是非もりづくりベースでも端材提供などを行い幅広い活動に繋げたい。

(澤田委員)

当初計画ではエントランスに木育のパネルなどを設置し、普及啓発に努めるとのことであつたがどうなっているか。また5年間で利用者を6万7500人に設定しているが、団体登録などは煩雑であるため、年間利用申し込みなども受け入れてはどうか

(事務局)

エントランスには木製フレームを設置した通路や無垢板による広場設置など様々なワクワクを生み出すような演出としている。木育ルームに入れない就学児以上の子どもや連れてきた大人が暇にならないように木工室に毎週土曜日に講座を開くようにするなど年間利用者を伸ばすために幅広い年代層が楽しめるような仕組みを取り入れていく予定としている。

以上